

『 禅のこころ -曹洞宗- 』

かすいさい
可睡斎

令和元年6月第2週放送

かすいさい ふくろいし とうようけん
可睡斎は、静岡県袋井市にある曹洞宗の修行道場で、創建は一四〇一年、もとは東陽軒と号した、六百有余年の歴史を持つお寺です。

かすいさい
可睡斎という珍しいお寺の名前は、徳川家康との縁によってつけられたと伝えられています。

せんりんとうぜん
時は戦国時代、十一代目の住職仙麟等膳大和尚は、幼い徳川家康とその父を、戦乱の中より救い出し、かくまいました。その後、浜松城主となった家康は、その恩に対し感謝の思いを伝えるため、和尚を城に招きました。その面会の席上、和尚はコクリコクリと無心に居眠りをしたそうです。

そんな和尚を見て、家康はにっこりとし、こう言ったといわれています。

「和尚は私のことを、まるで愛おしいわが子のように見ておられる。だからこそ、私の前で安心して眠っておられるのだ。私はその親密な気持ちを喜ぶ。和尚、ねむるべし」

最後の「ねむるべし」を漢文的にあらわすと、可能性の「可」に、睡眠の「睡」と書いた「可睡」となります。

せんりんとうぜん かすい
その浜松城での出来事以来、仙麟等膳大和尚は「可睡和尚」と言われ、後に寺の名前として「可睡斎」になった、といわれています。

かすいさい
可睡斎は、修行僧が、日々修行を行う道場ですが、他にもさまざまな特色があるお寺です。

あきばさんじゃくぼうだいごんげん ごしんでん
まず、火災を防ぐ秋葉三尺坊大権現がまつられている御真殿と呼ばれる建物があります。火防信仰の全国的な中心地となっており、毎年、十二月十五日には、秋葉の火祭り「火防大祭」が盛大に行われ、大勢の人々が参拝に訪れます。

ごんぎょう
宿坊があり、写経や坐禅が体験でき、朝の勤行にも参加できる一泊二日のコースがあります。

『 禅のこころ -曹洞宗- 』

す。旬の食材を取り入れた精進料理も味わうことができ、月二回の精進料理教室も開催されています。

また、一月から三月にかけて、可睡齋かすいさいひなまつりが催されます。供養として納められた約三千体のおひなさまが来る人を迎えます、さらに、四月中旬から五月初旬にかけてはぼたんが咲き誇り、夏には遠えんしゅうさんざん州三山まつりが開催されるなど、修行道場でありながら、多彩な行事が催される開かれたお寺だといえます。

その由緒ある歴史や、火防信仰の中心地であること、また境内伽藍の広さ大きさなどから、とおとうみ遠江の国の三つの大きなお寺、遠えんしゅうさんざん州三山のひとつとして数えられる可睡齋かすいさいに、ぜひ訪れていただきたいと思います。

— 終 —